

品群から類まれなる画業の全貌に迫ります。

『新青年』の挿絵画家として知られる松野一夫。本展では、『新青年』はもちろん、そのほかの分野の多彩な仕事や、これまであまり紹介される機会がなかったパリ滞在期のスケッチや油彩画、晩年の水墨画なども含めて、幅広い作品群から類まれなる画業の全貌に迫ります。

松野一夫は、1895年、福岡県小倉市堺町（現 北九州市小倉北区堺町）に生まれました。上京後、ドイツ帰りの洋画家 安田稔のもとで絵を学びます。1921年、第3回帝展に初入選しましたが、前年より雑誌『新青年』の編集長 森下雨村に認められて同誌に挿絵を描き始めていた松野は、挿絵画家としての成功によって次第に洋画壇とは疎遠になっていきました。

『新青年』では、多くの連載小説の挿絵も担当しながら、1921年5月号より1948年3月号までの表紙絵を約27年にわたってほぼ一人で描き続けました。翻訳小説における西洋の人物や風俗の描写に定評があり、自身も国籍に応じて人物の顔を描き分けることができると自負していました。松野は、少女雑誌のファッションページや少女小説、児童雑誌の表紙や小説など、あらゆる分野の挿絵で多くの人を魅了しました。ほかに、本の装丁や絵本の出版など、その仕事は多岐にわたります。晩年には、個人的な楽しみとして、墨と淡彩を用いた郷愁を誘う作品を多数残しています。



さまざまな分野の挿絵で多くの人を魅了した『新青年』の挿絵画家—— 松野一夫 (1895-1973)



		1	
2		3	
4	5	6	7

- ①「黒死病殺人事件」(小栗虫太郎) 第1回扉 挿絵原画
(『新青年』第15巻第5号) 紙に墨、インク
1934年 世田谷文学館蔵
- ②「何者」(江戸川乱歩) 第28回 挿絵原画(『時事新報』夕刊
1929年11月27日～12月29日 全28回) 紙に墨、インク
1929年 弥生美術館蔵
- ③「サムと該撒」(マッカーレー) 挿絵原画(『新青年』第10巻第1号)
紙にインク 1929年 個人蔵
- ④「パリの街角」板に油彩 1931-32年頃 個人蔵
- ⑤「四つのクリスマス」より「ボヘミア」(『少女の友』第27巻第12号)
紙に水彩 1934年 早稲田大学倉津八一記念博物館蔵
- ⑥「雲の兄妹」(北條誠) 第106回 挿絵原画
(『よみうり少年少女新聞』1958年4月26日～12月30日 全107回)
紙に水彩、鉛筆 1958年 個人蔵
- ⑦「小倉絵巻」(部分) 紙に墨、淡彩 1960年代
北九州市立自然史・歴史博物館蔵

©Nagako Iwai 2023/JAA2300086

—— 没後50年、類まれなるその画業の全貌に迫ります



北九州市立美術館分館

KITAKYUSHU MUNICIPAL MUSEUM OF ART, RIVERWALK GALLERY
リバーウォーク北九州5F
〒803-0812 北九州市小倉北区室町一丁目1番1号
電話093-562-3215 <https://www.kmma.jp>

アクセス ●JR=小倉駅から徒歩10分/西小倉駅から徒歩5分
●西鉄バス=「小倉駅バスセンター」から魚町・ソレイユホール方面行きのバスに乗車、「室町・リバーウォーク」バス停で下車/「西鉄天神高速バスターミナル」から高速バス「いとづ号」(小倉方面行き)に乗り、「西小倉駅前」で下車 ●車(北九州市都市高速道路)=「小倉駅北」ランプより5分/「大手町」ランプより5分
※観覧料では駐車場利用料の割引はございません



イベント

ギャラリートーク

9月17日回、10月1日回、
10月29日回

- 時間=11:00～11:30
- 集合場所=5階ロビー
- 参加費・事前申込み不要
- *展覧会観覧料が必要です。

同時開催 ※別途観覧料が必要です。

北九州市立美術館 本館(北九州市戸畑区西郷ヶ谷町21-1)

コレクション展Ⅱ 特集 Re: 1993

[ゲスト展示: guest room 008]

ナウィン・ラワンチャイクン Place of Rebirth 新生の地
8月26日回～12月17日回

石岡瑛子 I デザイン 9月9日回～11月12日回